讀賣新聞
2023年(令和5年)
9月7日木曜日

車いす介助 家族旅行楽しむ

ツアー参加や計画作り相談

涼しくなる秋に家族で旅行を考える人は多いだろう。高齢や障害により車いすが必要な家族がいる場合でも、旅行会社や団体に相談して実現可能な計画を立てたり、介助者の付き添いなどのサポートを受けたりすることができる。

北海道ニセコ町の岩館早馬さん(40)は今春、病気で車いす生活を送る父親(74)ら家族と親戚計7人で3泊4日の京都旅行を楽しんだ。「バリアフリーツーリズム京都」(京都)に、旅の計画や交通、宿の予約、介助関連の手配を依頼した。入浴介助のヘルパー派遣や、車いすで乗れる福祉車両のレンタルの費用は計約8万円。「ゆとりと安心感が生まれ、笑顔の父と嵐山や銀閣寺を巡れた」と振り返る。

車いすでの旅行は現地で困らないよう、下調べや準備が重要だが、交通機関や観光・宿泊施設ごとにバリアフリー情報を調べるのは労力がかかる。旅行会社に問い合わせたり、車いすの人を対象にした団体ツアーに参加したりするほか、施設情報などを提供する団体に相談すると便利だ。NPO法人「日本バリアフリー観光推進機構」(事務局・三重)は全国約20か所に窓口がある。NPO法人「日本ユニバーサルツーリズム推進ネットワーク」(兵庫)は、全国37団体が加盟し、計画作りの相談に乗るなどしている。

「推進ネットワーク」の事務局、神戸ユニバーサルツーリズムセンター長の野見朋子さんは「コロナ禍による旅行控えもあり、準備に不慣れな家族は多いはず。気軽に相談を」と話す。車いすでの移動や入浴、食事、夜間の見守りなどを支援するヘルパー派遣サービスもあり、同センターでは原則1時間5000円(利用は1・5時間以上)と交通費がかかる。

計画作りの相談は、現地の下見やヘルパー確保などの調整に時間がかかることもあるため、出発の1か月前には行いたい。必要な情報は目的地や予算、人数、楽しみたいことなど要望だけでなく、「食事やトイレ、服薬などで心配に思うことも伝えてください」と野見さん。「特に自力で立ち上がれるかなど体の状態や、日頃の介助の内容は正確に説明することが大切です」。立てないのに「立てる」などと言うと、必要な支援が受けられなくなる。

宿泊先選びには車いすのサイズや重さのほか、電動か手動かどうかも重要だ。客室までの段差やスロープの有無、客室の出入り幅、室内で回転できるスペースがあるかを事前に確認しやすくなる。

貸し切り風呂や露天風呂付きの客室を利用すれば他の宿泊客に気兼ねせずに入浴できる。最近は浴場に入浴用の車いすや介護リフトを備えた温泉宿もあり、「利用すれば介助が楽になり、家族も旅を楽しむ余裕が生まれます」。

看護師らが出発から帰宅まで付き添うサービスもある。「ハンディネットワークインターナショナル」(大阪)の日帰りなど8時間以内の同行費は介護スタッフ1人が5万5000円、看護師は8万2500円。交通費は別。1泊2日の同行費は倍で、宿泊費もかかる。社長の春山哲朗さんは「要介護度が高くても希望がかなえば、人生で前向きな思い出ができる。最初から旅行は無理だとあきらめないで」と話す。

旅行会社などに相談する際はキャンセル料の発生条件を確認しておきたい。要望などに基づいて計画を作り、宿泊先などを仮予約した時点で発生する場合がある。

父親の車いすを押して京都・嵐山の竹林を散策する岩館さん(3月)＝本人提供

車いすでの旅行に関する情報収集・相談先

日本バリアフリー観光推進機構
運営サイト「全国バリアフリー旅行情報」
http://www.barifuri.jp/　☎080・6955・7883
秋田～鹿児島にある約20か所の相談センターが施設情報を提供

日本ユニバーサルツーリズム推進ネットワーク
http://jutn.net/　☎078・381・6470
全国37団体が加盟。計画作りの相談やヘルパー派遣などを行う

観光庁「観光施設における心のバリアフリー認定制度」
バリアフリーの認定基準を満たした全国のホテルや飲食店など約930施設をホームページ上で公表